

日米協会シンポジウム「日米民間文化交流70年」

2015年6月12日 国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール

千 玄室大宗匠 講演要旨

本日は、日米協会の戦後70周年記念シンポジウムにお招きいただきありがとうございます。

この国際文化会館は、かつて松本重治氏が尽力されてトインビーやオープンハイマーなど米国最高の碩学を含めた、国際的知識人の交流の場であったことを思うと意義深いことです。今日のテーマの戦後70年間はとても50分ではお話できません。

私は今年92歳で幸い健康です。長生きの秘訣をよく聞かれますが、今私の体を切れば緑の血がでるほどお茶を頂いています（笑）カテキンが健康に作用しているのでしょう。

私は1943年同志社大法学部の1年だった時、徴兵猶予取り消しになり海軍に入隊、土浦からその後徳島へ移りました。45年5月、戦争は末期になっていたのですが神風特別攻撃隊に編入されました。皆さんはカミカゼと言いますが正しくはシンプウです。

ところが私は体格が大きかったもので零戦には乗れず、大型偵察機に廻されました。

私の仲間は、今でも沖縄の海に621柱が眠っています。愛する家族の為に突っ込んでいったのです。私は鎮魂のお茶を毎年点てます。そして一椀のお茶を海に供える時、平和を祈ります。今でも海底の仲間は平和を祈っているのです。

終戦となり復員すると、米軍の将兵が我が家に来てお茶の勉強をしているではありませんか。占領した米兵には、日本を理解する為にお茶等の日本文化を勉強する様に上層部の命令が出ていたのです。この時私は米国に希望を感じました。家では英語の堪能な父が一椀のお茶の中に平和がある。お茶には差別区別がなく、権力者でも皆丸腰で躡り口から頭を下げてお茶室に入る。互いに敬い合い感謝する「和敬」の精神がお茶であると米兵に説いていました。

当時、家は禅宗であり同志社はキリスト教。この両方を理解出来た事が、私がその後米国でお茶を広めるのに役立ったのです。私の祖父円能斎のお弟子に新島襄夫妻がいらっしやり、その八重子夫人の弟子のミセス・デントン。この方は米国人でしたがとても熱心でした。

私は同志社の速水先生から1冊の本を渡されました。これが岡倉天心の「The Book of Tea」ですが、これは茶道具の解説を含めた哲学書で茶道を「Tea Ceremony」と言ったのです。お茶が儀式として紹介された為に誤解が生じてしまった。お菓子を召し上がる、お茶を点てる阿吽の呼吸、つまり「間」が大切なのです。日本人は昔から玄関に一輪の花や、打ち水など生活の中に自然観を持ちました。人間としてのゆとりが大切なのです。

そうしているうちに私に渡米の話が持ち上がりました。当時は戦後間もなくでなかなか米国へは行けないご時世でした。幸いお茶を好きな米国人が間に入って下さって1951年渡米しました。パスポートのまだ無い時代ですからGHQ司令部の書面とレントゲン、回

虫がない証明書（笑）などが必要でした。1月10日にパンナムのプロペラ機で日本を発ち、サイパン・グアム経由でハワイへ着きました。ハワイ大学で英語を勉強したのですが、ピジョン英語でなまりが強くその後、サンフランシスコのホームステイ先では厳しく直されました。

1951年9月サンフランシスコで講和条約が発効。丁度知り合いがいて私もメモリアルホールに入れました。その時ゴールデンゲート美術館で初めて日本美術展が開催され、その時にお茶の点前の実演を致しました。NYには当時、鈴木大拙先生と湯川秀樹博士がおられまして、湯川夫人は私の母とはお茶と通して懇意でした。このお二人のお蔭でその後コロンビア大学でもお茶の点前の実演を行ったのです。説明は湯川博士でした（笑）。茶道を「Way of Tea」と紹介されこれは中国の道教から来た思想で、人間は頭で考えることその他、実践し行動する必要がある、それを習熟することで自らの精神が落ち着いて来るのです。鈴木大拙先生は「禅と茶」を話され大変な反響をよびました。アメリカ人がお茶の心を理解してくれた一例ですが、米軍のダイク代将が早稲田大で講演し日本には昔から民主主義が有る、それは茶道であると。日本は敗戦したが文化を持っている。お茶室では武器を捨て身分の上下なく一椀のお茶を奨めあった。礼に始まり礼に終わる日本文化の代表がお茶であると言ったそうです。

日本は戦後70年間アメリカとの安保条約で平和でした、しかし日本が失ったもの、それは誇りであり自尊心ではないでしょうか。これからの日米関係を考える時、ともすると日本はアメリカの庇護の元にいますが、どうすれば日米が同等に世界平和に貢献できるか、あるいは日本の経済力をもっと発揮していかに外交の力を付けるかを真剣に考える必要があります。将来の為、日本を愛する自尊心が必要なのです。

私は何時死んでも良いと思っています。今、「和敬清寂」の精神が世界平和のために少しでもお役に立てば良いし、日米文化交流の発展に一椀のお茶が役たてば良いのです。

お茶という伝統文化に皆様のご理解を戴き、今後の日米関係の発展に繋がることを期待しています。

ご清聴ありがとうございます。